

(一般Q6)

## 「チェルノブイリ原発事故の健康への影響」は？

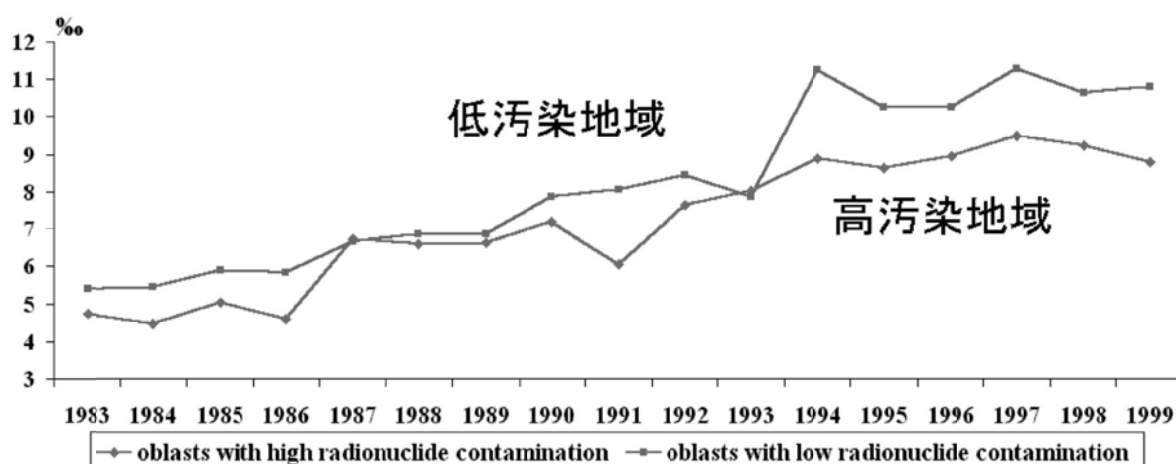
### 回答

IAEA が代表して国際会議「チェルノブイリ:前進のために過去を振り返る」を2005年9月6～7日、ウィーンのオーストリア・センターで開催した。また、事故20周年にあたる2006年4月には、ベラルーシ、ウクライナそれぞれの政府が国際会議を開催した。

甲状腺がんが、事故当時18歳未満であった者に約4,000例発生し、9人が甲状腺がんにより死亡、99%は生存している。成人での被ばくについては増加が明らかでなく、経過観察が必要とされた。なお、2006年4月の報告書(ダイジェスト版)改訂2版では、甲状腺がん死亡した子供の数を15名に修正した。

一般住民に白血病が増加したとの報告は、汚染レベルとの関連がなく、乳がんがベラルーシ、ウクライナで増加したとの報告は、放射線との関連等が不確かとされた。

がん以外の疾患については、白内障、心血管疾患に被ばくとの関連が示唆され、今後の追跡が必要としている。緊急・復旧作業に従事した者のデータは従来考えられていた線量レベルより低い約250 mSv で白内障が発生する可能性があることを示したという。胎児の奇形、乳児死亡率に関しては、放射線との関連を裏付けるものはないとしている。ベラルーシの汚染地域で先天性奇形の増加が報告されているが、汚染の少ない地域の方が増加が大きく(第1図)、放射線に関連するものとは見られず、単に登録の増加と考えられるとしている。



第1図ベラルーシにおける先天性奇形の発生率(Lashuk 他, 1999)

**心理的、精神的影響が重大な問題**であり、住民の不安、不健康なライフスタイルなどさまざまな要因がからんでいるという。1991年のソ連邦崩壊後、チェルノブイリ事故とは関係のない多くの理由のため、3カ国の死亡率が増加し、平均寿命が短縮しているが、特に、男性の寿命短縮が著しい。この3カ国における急激な死亡率の増加は、チェルノブイリ事故による放射線被ばくの死亡率への寄与の評価を著しく困難にしている。

## 解説

上記は一般住民の長期間に渡る健康への影響である。汚染地域の子供は、甲状腺に高線量を被ばくした。これは、汚染された地産の牛乳を通じ、甲状腺に蓄積される性質を持つ放射性ヨウ素を多量に摂取したためであり、また、子供は身体および器官が小さいため、大人より累積線量が高くなるためでもある。

健康影響に関しては種々の意見があるが、下記アドレスのインタビューが参考になる。回答者は、甲状腺医学の第一人者としてチェルノブイリ事故の放射線影響について事故当初から関わってこられた長崎大学の長瀧名誉教授である。

## 引用元

・日本原子力学会誌；チェルノブイリ 20 年の真実

<http://www.aesj.or.jp/atomos/popular/kaisetsu200701.pdf>

・フリー百科事典ウィキペディア；チェルノブイリ原子力発電所事故

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%AB%E3%83%8E%E3%83%96%E3%82%A4%E3%83%AA%E5%8E%9F%E5%AD%90%E5%8A%9B%E7%99%BA%E9%9B%BB%E6%89%80%E4%BA%8B%E6%95%85>

(コピー & ペーストで見られます)

・日本原子力文化振興財団；チェルノブイリ事故の健康影響の実態とは

<http://www.jaero.or.jp/data/02topic/cher25/interview1.html>

インタビュー；Q2.事故から 25 年、住民の健康影響についてわかったこととは (4:17)

<http://www.jaero.or.jp/data/02topic/cher25/interview/nagatakiQ02.html>

インタビュー；Q3.精神的影響が心配されていますが (1:58)

<http://www.jaero.or.jp/data/02topic/cher25/interview/nagatakiQ03.html>

インタビュー；Q5.ヨウ素 131 とセシウム 137 の健康への影響は (3:28)

<http://www.jaero.or.jp/data/02topic/cher25/interview/nagatakiQ05.html>

